

# モイモイのモイ

(一歩一歩のたった一歩)



## クライミング連盟を作る!

A W(人工壁アンコール・クライミング・ウォール)の竣工から1年経った2011年1月、カンボジア・クライミング連盟の設立が正式に認められた。ここで、時系列を2009年夏に戻したい。当時、AWオープンまでの縦軸から派生する様々な出来事が同時進行していたからだ。

僕はPCにCADをインス

トールして、毎日追われるように、しゃかしゃか図面や細々とした資料をまとめていた。そして確か最初にシエムリアブ、少し間を空けてプノンペンに、いずれも日本人の手によるプライベートウォールといった規模の人工壁が、僕らのプランを意識したように出現した。前者のオーナーは僕らの団体名、ACNをちゃっかり無断で商用ポスターに使った。甘いか狭量とか両極の雑言を背に、僕は謝罪もしないこの男をとりあ

えずブラックリストに加えた。泥色のシエムリアブ川に放り投げお仕置きしたい気分だったけれど、楽しそうじゃないので実行はしなかった。

この2つの小さな人工壁は一般に公開され、現在でもそれに賑わっている。プノンペンのそれは管理者の見当たらないいい加減なボルダーだが、近隣にステイする西洋人のクライマーにとっては、質はどうあれ、手軽なツールには違いないし、シエムリアブのくだんの壁だって、たとえ疑わしい構造であっても、観光客には事故が起きるまでその有り様を評価する術がないからだろう。もともと僕らの方だって壁は立派でも、運用

するのは未熟なシロウト集団で、えらそうなことはまったく言えないのだけれど。かくしてカンボジアが人工壁のアウトレットモールと呼ばれる日も近いかも(冗談……だとい

いけれど)。

## 目指せ、アンコールクライマー誕生!!



つい先日(2012年10月15日)“独立の父”シアヌーク国王が亡くなった。1945年、外交戦略でフランスから独立を勝ち取り、列強の思惑をすり抜ける“綱渡り外交”で、当時のカンボジアを平和に導いた。テレビでは一日中、徳ぶフィルムが流れ、街の至るところに供養の長い列が出来ている。



カンボジア・オリンピック委員会事務局長、ヘン・トン氏(右)と、僕。今年の2月、僕はプノンペン、ナガワールドホテルで開催されたカンボジア・オリンピック委員会の年次総会にヘン・トン氏から個人的に招待されて出席した。

するのには未熟なシロウト集団で、えらそうなことはまったく言えないのだけれど。かくしてカンボジアが人工壁のアウトレットモールと呼ばれる日も近いかも(冗談……だとい

いは、と僕は思わず平伏、一瞬でホビットになってしまった。しかし、うん、確かに。とはいえ、僕は途方に暮れた。そこへ訳知りのご隠居さん登場(おっと、まだ50代だっけ)。クライミング連盟を作りなさい、\$500で段取りして進めよう。はあ?(カンボジアにはこういう怪しいヤツがいっぱいいます)

で、5月、国王誕生日の連休を利用して、スムロンの教員養成校時代の恩師に相談することにした。その恩師は、なんとプノンペンにあるカンボジア・オリンピック委員会の事務局長

だったのだ。(続く)